

平成 29 年度 第 5 回 荒尾市地域公共交通活性化協議会 議事録要旨

日時：平成 30 年 3 月 20 日（火）午後 3 時 00 分～午後 4 時 15 分

場所：荒尾市役所 42・43 号会議室

出席者：荒尾市地域公共交通活性化協議会委員 31 名（内代理出席者 3 名）

オブザーバー 2 名 ※別紙出席者名簿のとおり

【事務局】

（荒尾市 政策企画課）石川部長、宮脇課長、田中課長補佐兼政策経営室長、平山

（日本工営株式会社）許斐、行徳

（日本工営株式会社）上野、許斐

1. 開会

宮脇課長が、開会を宣言し、資料の確認を行った後、欠席委員及び代理出席者の紹介を行った。

2. 会長あいさつ

会長である田上副市長からあいさつがなされた。

- ・前回の会議では、今年度実施した各種調査や本協議会での議論などを踏まえて取りまとめた「荒尾市地域公共交通網形成計画(素案)」を提案し、公共交通の活性化に向けた観光客への情報発信の強化や、高齢者の自動車運転免許の自主返納への対応などについて意見をいただいたところである。
- ・今回は、パブリックコメントの結果などを踏まえ、最終的に取りまとめた「荒尾市地域公共交通網形成計画(案)」について報告するとともに、来年度実施する具体的な取組みについて提案させていただくので、それぞれの立場から、忌憚の無いご意見をいただきたい。

3. 議事

宮脇課長が、委員出席が過半数を超えており、本会議が成立している旨の報告を行った後、設置要綱第 6 条第 2 項により、会長が議長に就任した。

(1) 第 4 回会議の議事録要旨について

(2) 第 2 回合同協議会における協議内容について

事務局（田中）が、資料 1 及び資料 2 に基づき、第 4 回会議の議事録要旨及び第 2 回大牟田・荒尾地域公共交通活性化合同協議会における協議内容について説明を行った。質問や意見等は無かった。

(3) 荒尾市地域公共交通網形成計画(案)について

事務局（平山）が、資料 3-1 に基づき、パブリックコメントの結果と対応方針について説明を行った。また、資料 3-2 に基づき、第 4 回会議からの変更点を中心に、荒尾市地域公共交通網形成計画(案)について説明を行った。

協議の結果、承認された。

《主な質問・意見など》

- 事務局 → 基本的な方針2の数値目標のうち、JR 荒尾駅の利用者数について、玉名市方面に行く利用者も含めると、現状でも既に2300人程度はいるのではないかと。
→ 従来は駅の利用者数として「乗降者数」を使用していたが、平成28年度からは「乗車人員」のみが公表されるようになったため、それに合わせて乗車人員を指標として設定しているものである。本数値には、大牟田市方面と玉名市方面のどちらの利用者も含んでいる。
- 事務局 → 基本的な方針2の数値目標について、運行便数を指標として掲げることには違和感がある。交通事業者に努力を求め、減便させないようにするという意味合いなのか。網形成計画という制度が本来目指しているものと異なるような指標設定になっていると思う。大牟田市と合わせたものなのか。JRも、現時点ではこれ以上の大幅な減便はしないとされているが、実際にどうなるかは分からない。逆に、今後利用者が増えた場合に、現状の便数の中で対応しなければならないとするのも疑問である。
- 事務局 → 便数を指標とすることについては、交通事業者に運行を強要することにもなりかねず、自治体で運行補助ができない場合には経営にも影響するのではないかという意見や、便数を維持しなければ利用者の増加は見込めないのではないかという意見などをいただいたところであり、大牟田市や運輸支局との協議も踏まえ、便数と利用者数を併記し、便数については努力目標とする形で掲載している。利用者数を増やすことで便数を維持していこうという意味合いである。
- → 目標というのは、アウトプット指標、できればアウトカム指標を定めるというのが今の潮流であり、そのような中で便数という指標を設定することは、時代に逆行しており適切でないと思う。
- → 基本的な方針4の中で新たに追加した電動インフラに関する事業は、先進的な事例でもあり、現時点では具体的な内容の検討までは至っていないかもしれないが、ぜひ計画に記載し、推進すべき内容であると思う。例えば乗合タクシーについても、車両を電動化すれば運行経費が抑えられ、運行頻度を上げることも可能になるだろう。計画に記載しておくことで、今後、国の支援を受けられることも考えられる。
- → 事業として計画に記載することは良いと思うが、スケジュール感としては、今後5年間の間に法整備が行われるかという点は未知数であると思う。ただし、今後、国の補助対象となることも考えられるので、掲載しておいてよいと思う。また、便数を指標とすることについては運輸支局としても違和感がある旨を指摘してきたが、大牟田市との調整の過程でどうしても便数を指標にしたいという意向が強かったようであるため、努力目標としてならばやむを得ないと理解したところである。
- → 実務的な話もあるため、上記事業の追加については事務局に一任とさせていただけないか。
(異議なし)
- → JR 荒尾駅の駅舎がバリアフリー化されておらず利用しにくいことに加え、JR 南

- 荒尾駅についても、今後荒尾干潟付近にビジターセンターが建設されることを見据えると、駅舎の反対側に出口を設けることで利便性が高まると思うため、そのような内容も記載してはどうかと思う。
- 事務局 → 来年度、南荒尾駅の駅前広場の改善を予定している。また、観光施設へのアクセスの件も所管課に意見を伝えておく。
- ・海外からの観光客はどの程度いるのか。ラムサール条約への登録を契機に外国人観光客の来訪者が増加することも期待できると思うが、海外からの観光客の視点で考えると、公共交通はさらに重要となる。バスロケーションシステムを全県的に導入すると聞いたがいかがか。
 - → その予定である。
 - → バスロケーションシステムの導入により色々な取り組みができるようになるので、ぜひ活用してもらいたい。
 - ・いくつかの自治体で地域公共交通の活性化等に関わっているが、荒尾市は、住民の方々から色々な意見が出されており、非常に良いと思っている。他の自治体に比べると、決定も早く、斬新なアイデアも出てきているため、引き続き進めてもらいたい。そういった意味でも、自動運転はまだ先のことになるだろうが、自動車の電動化は主流の技術であるので、荒尾市でも導入していただき、先頭に立った取り組みを進めてもらいたい。
 - ・今後は計画の進捗管理を行うことが重要になると思うが、計画の推進についてはどのように考えているか。また、大牟田市との今後の連携についてはどう考えているか。
- 事務局 → 計画に記載しているとおり、毎年度開催する本協議会において数値目標の達成状況等を確認するとともに、各事務事業の取り組み状況等についても報告したいと考えている。また、大牟田市との連携については、今後は両市の協議会で進捗管理を行いながら、調整の必要が生じたときに改めて合同協議会を開催したいと考えている。合同協議会のほかにも、有明圏域定住自立圏などの既存の組織もあるため、そのような協議の場も活用しながら、情報共有や意見交換を行っていきたい。
- ・策定された網形成計画については、以前の総合連携計画をブラッシュアップしたものとして、目標もシンプルで分かりやすいものになっていると考えている。網形成計画はいつでも内容の変更が可能であるので、必要に応じ施策等を追加していただいてよいと考えている。荒尾市は県内でも先進的な自治体であると考えているので、これからも先陣を切って進めていただきたい。

(4) 平成 30 年度に実施する主な事業について

事務局（平山）が、資料 4 に基づき、平成 30 年度に実施する主な事業の概要について説明を行った。

《主な質問・意見など》

- ・産交バスの定期券等の販売場所があらおシティモールに変更されることは非常に良いと思う。一方、福祉特別乗車証についても、入手方法を分かり

やすくすることが重要だと思うため、周知方法を工夫してもらいたい。また、荒尾干潟のビジターセンターに向かう動線については、JR 南荒尾駅の西側から直接アクセスできるよう検討してほしい。観光客の利便性向上のために、例えば万田坑とビジターセンターを繋ぐようなバス路線の新設についても検討してほしい。

- •乗合タクシーの運行拡大に向けては道路運送法上の手続きも必要であるが、国庫補助の対象にもなっているため、事業年度途中での事業開始となれば、確保維持改善計画の変更手続きも必要になる。事業内容が明らかになった際には事前に情報提供いただきたい。

4. その他

宮脇課長が、最終的な計画書については来年度開催する本協議会にて配付することを報告した。また、次回会議まで期間が空くため、議事録の確認は郵送にて行うことを報告した。

5. 閉会

宮脇課長が、閉会を宣言した。